

著書の訂正

著書、編著書の訂正（刊行年順） 2016年9月9日時点

『高校が生まれ変わる』（2000年6月 中央公論新社）

151ページ 後ろから7行目「学校改革の困難さそれと同じ問題がここにもある。」→「学校改革の困難さ。それと同じ問題がここにもある。」

219ページ 2行目「私の原稿はほとんどの出版社からは反応がなかったが、」→「私の原稿はほとんどの出版社から黙殺され、反応がなかったが、」

後ろ初出一覧「Ⅱ 都立高校の再生は可能か書き下ろし」→「Ⅱ 都立高校の再生は可能か 書き下ろし ただし、「3. 私立高校と都立高校」は『中央公論』二〇〇〇年五月号」

編著『論争・学力崩壊』（2001年3月 中公新書ラクレ）

4ページ 1行目と後ろから5行目「少数」→「小数」

10ページ 9行目「これは七〇年代に」→「これは八〇年代に」

10ページ 後ろから7行目「などはその頃から大学の教官によって」→「などは七〇年代から大学の教官によって」

17ページ 後ろから6行目「昨年から地方教育行政法が変わり、」という箇所について、実施は〇一年四月から？

『「勝ち組」大学ランキング』（2002年4月 中公新書ラクレ）

176ページ 3行目「前者では上位の神戸が下位に下がり、」→「ランキング A では上位の神戸が下位に下がり、」

176ページ 3行目「ランキングしていた群馬」→「ランキング入りしていた群馬」

193ページ 後ろから6行目「お考えをお持ちである」→「考えをお持ちである」

197ページ 1行目「〇遠山プランと大学の機構改革について」→「〇遠山プランと大学の構造改革について」

197ページ 6行目「渡邊守章、川口昭彦、山内久明」→「川口昭彦、渡邊守章、山内久明」

『高校卒海外一直線』（2002年11月 中公新書ラクレ）

55ページ 1行目「海外帰国子女教育研究協力校」→「海外帰国生教育研究協力校」

90ページ 最後の行 「(栞島さん)」 → 「(file.04・栞島さくらさん)」

後ろから始まる横書きのページの123ページ上から6行目「海外留学センター」 → 「海外進学センター」

編著『論争・学力崩壊 2003』（2003年4月中公新書ラクレ）

6ページ 1行目「そこに受験のハウツー本を多数執筆している」 → 「九九年にそこに受験のハウツー本を多数執筆している」

18ページ 後ろから4行目「二〇〇一年十月に発表した」 → 「二〇〇〇年十月に発表した」

37ページ 後ろから5行目「否定や批判や不安をあおるばかりで、」 → 「否定や批判しかせず、不安をあおるばかりで、」

52ページ 一番最後の日付「二〇〇二年十月十三日発表」 → 「二〇〇〇年十月十三日発表」

『徹底検証・大学法人化』（2004年9月中公新書ラクレ）

13ページ 後ろから6行目と4行目「教育研究協議会」 → 「教育研究評議会」

27ページ上「経営協議会外部委員リスト」 → 「東大経営協議会外部委員リスト」

27ページ 9行目 「(図表1を参照)」 → 3行前の「招かれた顔ぶれが臨んだ」の後ろに入れる。

37ページ 9行目「放送大学の学長」 → 「放送大学の理事」

62ページ 最後の段落「敵は・・・」で始まる段落全体を「」でくくり、最後に「と」を加える。

84ページ 最後の行「応用生物科学系教授」 → 「応用生物化学系教授」

103ページ 後ろから5行目「二四〇〇万に対して六〇〇万で」 → 「二四〇〇億円に対して六〇〇億円で」

115ページ 後ろから4行目「教育研究協議会」 → 「教育研究評議会」

125ページ 1行目「誰の指図なのだろうか。」 → 「誰の指図だったのだろうか」

132ページ 7行目「鹿児島大の医学部長から学長に就任した。」 → 「鹿児島大学附属病院院長を務めた。」

137ページ 最後の行 「『改革案』の外部公表用の文面も用意され、」 → 「東大医学部では、『改革案』の外部公表用の文面も用意され、」 181ページ 7行目 「COEは大学の組織力ためされるもの」 → 「COEは大学の研究拠点の組織力がためされるもの」

197ページ「国立大の事務局長が副学長に就任するのは聞いたことがない。」（文科省） → 東北大学の北村氏より約8年早く、遠山高等局長時代の平成6（1994）年4月に、国立豊橋

技術科学大学の事務局長の山下富雄氏が同大学の副学長に就任し、2年間の任期を果たして
いました。ですから「旧帝大では」を入れれば、正しいことになります。

『徹底検証・大学「法人化」以後』（2008年8月中公新書ラクレ）

220ページ 後ろから7行目「工学部約四六〇人」→「工学部約四六〇人の教員数」

424ページ 「IV 闘えない国大協」の2行目「を充実させていく』」→「を充実させて
いく』（二〇〇七年六月）。」

352ページ 2つの表の内の下の表「各国の周産期死亡率」は上の表「各国の妊産婦死
亡率」の数値と同じものになっている。

以下に差し替える

各国の周産期死亡率（出生1000あたり）

年 日本 アメリカ ドイツ イギリス

[1975年](#) 16.0 20.7 19.4 19.9

[1985年](#) 8.0 11.2 7.9 9.9

[1995年](#) 5.7 7.6 6.9 7.5

[2005年](#) 3.3 7.0 5.9 8.5

352ページ 1行目 「表を」→「三五三ページの表を」

353ページ 6行目 「二〇〇四年は」→「二〇〇五年は」

『日本語論理トレーニング』（2009年2月 講談社現代新書）

本書は幸いにも増刷されています。

以下は訂正が2014年11月の第5刷から反映されていますが、それ以前の版でお持ち
の方々に報告しておきます。

48ページ 右の図

「そこ（古典）でいわれていることじたい」→「そこ（古典）でいわれていることじたい
（によって）」

「そこ（古典）でいわれようとしていることじたい」→「そこ（古典）でいわれようとし
ていることじたい（によって）」

「=それ（古典）が私たちに投げかける志向性の影」→「=それ（古典）が私たちに投げ
かける志向性の影（によって）」

78ページ 中央の図

「自己を国＝統一国家として画する（閉じる）」→「自己を国＝統一国家として画する（＝閉じる）」

163ページ 表の左欄

「仮説→仮説から導かれた、事実（現象）に関する結論（推測）」→「仮説→仮説から導かれた結論が、事実（現象）と一致するか否かを確認」

表の次の段落の1行目

「となるでしょう。ここには、」→「となるでしょう。ここには現象から仮説、仮説から現象という、」

163ページ後ろから5行目

「から導かれる現象を予測し、その結論が実験などで検証されます。」→「から導かれる現象（結論）を予測し、その結論が実験などで実際に現象と一致するか否かが検証されます。」

246ページ

II 立体的構成

(1) の「③環境説の極限の言説」→「③遺伝説の極限の言説」

260ページ

鶏鳴学園の住所は以下に変わりました。（これは第5刷にも反映されていません）

〒113-0034

東京都文京区湯島1-3-6 Uビル7F

『被災大学は何をしてきたか』（2014年3月中公新書ラクレ）

現時点ではなし

『「聞き書き」の力』（2016年6月 大修館書店）

156ページ 後ろから3行目「なお、レポートの指導法については、次章で」→「なお、レポートの指導法については、第五章で」

186～199ページの生徒作品について

ここに掲載した生徒作品は理科と社会科のレポートで、もともと横書きで書かれたもので

す。本書もそのままのイメージで、左ページから右ページへの順で掲載しています。
以下の順序でお読みください。

・理科のレポート：p. 187 → 186 → 189 → 188 → 191 →
190 → 193 → 192 → 195

・社会科のレポート：p. 194 → 197 → 196 → 199 → 198

275ページ 後ろから2行目

「喧々諤々」→「侃々諤々」

「研鑽を重ねた一六年間」→「研鑽を重ねた一八年間」

277ページ 11行目「本書の刊行までの三年間」→「本書の刊行までの四年間」
